



〈目標 15〉 陸の豊かさを守ろう

陸上生態系の保護、回復および持続可能な利用の推進、森林の持続可能な管理、砂漠化への対処、土地劣化の阻止および逆転、ならびに生物多様性損失の阻止を図る

伝統と革新のコラボレーションで、地域資源を見つめなおす

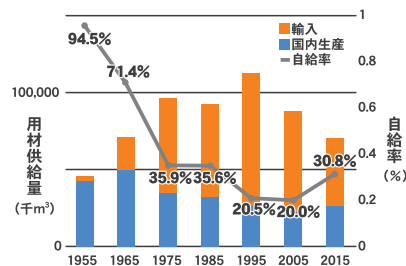
2015年4月、飛騨市と林業コンサルティングを専門とする株式会社トビムシ(東京都国分寺市)、そしてクリエイターのネットワークを持つ株式会社ロフトワーク(東京都渋谷区)の3者によって、第3セクター「株式会社飛騨の森でクマは踊る(以下、ヒダクマ)」が設立された。ヒダクマは、豊富な森林資源と伝統技術、さらに最先端のテクノロジーやアイデアを掛け合わせることで、全く新しい木材の可能性を提案し、地域経済の再生へとつなげていくことを目指したものである。

樹木はスギやヒノキに代表されるような針葉樹と、サクラやクリがよく知られる広葉樹の2つに大別することができ、さらに細かい樹種によって様々な特徴の差がある。一般的に木材資源の主要な活用方法である建築材料としては、針葉樹を使うことが常識とされてきた。他方、飛騨市の森林の7割は、建築材としては利用しづらい広葉樹であり、豊富にあるにも関わらず、これまで相対的に価値がないとされてきた。

多様な関係者によって場が創られる

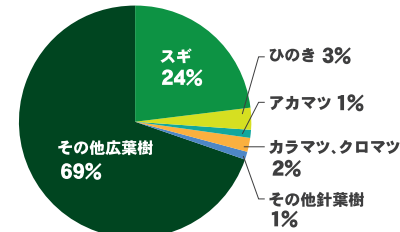


日本の木材供給量と自給率(用材のみ丸太換算)



出典:林野庁平成26年「木材需給表」より

飛騨市の民有林における樹種別面積



(単位: ha)

出典:飛騨市森林整備計画(2015年3月16日)を元に作成

ヒダクマでは、伝統的な組木技術やデジタルファブリケーションの活用、異素材との組み合わせなどを国内外のアーティストを呼んだコラボレーションを通じて、広葉樹に新たな価値を創出してきた。また、古くからの歴史ある家屋をリノベーションして「FabCafe Hida」をオープンし、デザイナーや木工職人が気軽に訪れ、その場で試作品を作成できる身近なモノづくりの活動拠点とした。単純に製作活動をするだけであれば、郊外に大きな工場を作ることで機材も充実できるが、生産者と消費者、また地元の人と訪問してきた人との交流が生まれにくいという欠点もある。「FabCafe Hida」は町の中心にあり、なおかつカフェや滞在・宿泊の機能も有している。「どういう機能があれば人が集まるのか」という視点で考えていった結果、自然と今の形になり、今では海外から来たクリエイターと古くからの地元の人たちが一緒に空間を共有する場となっている。



FabCafe Hidaの外観



FabCafe Hidaの内装

Point

- 感動を与えるカッコいいプロダクトを生み出すことによって、木材製品が生活に溶け込んでほしい。
- 森づかいの輪が広がって、地元の職人さんたちの会社がきちんと儲かるようにしたい。

岐阜県飛騨市

2004年に古川町、河合村、宮川村、神岡町の2町2村が合併して誕生した飛騨市は、岐阜県最北端に位置し、面積の93%を森林が占める。隣接する高山市と並んで、飛騨高山と呼ばれることが多く、この地域には奈良時代から優れた木工技術をもつ「飛騨の匠」を生み出してきた、歴史あるモノづくりの文化が今も息づいている。

Data 2016年6月1日現在

- 人口: 24,388人
- 面積: 792.53km²
- 林野面積: 728.85km²

[株式会社飛騨の森でクマは踊る] <https://hidakuma.com/>
[FabCafe Hida] <http://fabcafe.com/hida/>

